

東大生からの♡ラブコール

～東京大学本郷キャンパスで講演をしました～

2024年12月15日、東京大学本郷キャンパスの学生会議室で講演会が開催され、明和町長である私が講師をさせていただきました。題目は「コストコの町」のリーダーシップについてです。

デジ田×地方創生ゼミ
特別講演会
現役敏腕町長に聞く
「コストコの町」の
リーダーシップ

12.15^日
15:00 ~ 17:30
(14:45開場)

東京大学本郷キャンパス
第2食堂棟 学生会議室

講師 **富塚基輔氏**
群馬県明和町長

町長就任以来、工業団地造成・
企業誘致で実績を積み、財政、
行政改革に積極的に取り組み
町活性化を実現する実務派町長

申込フォーム
当日まで受付
※先着30名

共催
ルール形成戦略機構
UTokyo Politics Club
法学部第三類懇親会

不要なビラはビラ回収ボックスへ

【当日のチラシ】



【安田講堂前で】

この催しは、(株)産経リサーチ&データ（第110回コラムでご紹介しました）の栗本社長を通じて東大生と話しをする機会があり、そこで東大生に

「明和町長に学生の前で生の声を発してほしい」と依頼を受けたことがきっかけでした。

私自身大学に通っていた時期はありましたが、東大生のような学識高い学生の前で講師ができるとは思ってもみませんでした。もちろん、東京大学キャンパス内に足を踏み入れたこともありません。しかし、公務員や民間、事業経営、議会議員等の色々な経験が今、原資になり町長として存在しているわけです。私がこれまで培ってきた経験を基に、現役町長として町の活性化を実現するために取り組んでいることを講演いたしました。



【講演風景】

講演後、聴講生からは「現役町長の話は面白い」と言っていただきました。また、私の一連の行動を「根回しの達人」と評しました。事業の前に根回しをして、必ず到達させるための努力が半端ではないと読んだ訳です。私から言わせていただきますと、彼らはさすがです。やはり理解力が半端ではない、頭の回転が速くて読みが鋭いですね。

また、講演日は日曜日でしたから、休日にわざわざ講演を聴きに来るなんてモチベーションも高いと言う事ですね。



【東京大学赤門】

【東大赤門の由来】

東京大学と言えば「赤門」のイメージがあります。「赤門」について調べてみました。

“赤門の呼名で広く一般に知られているこの門は、元加賀藩上屋敷の御住居表御門であった。明治36年、医学部建設のために15メートルほど移動し現在の位置へ移されたが、元は15メートルほどキャンパス寄りに位置していた。

文政10(1827)徳川第11代将軍家斉の第21女溶姫は、加賀藩第13代藩主前田斉泰に輿入れした。赤門はこの時溶姫を迎えるため建てられたものである。江戸時代における諸侯邸宅門の非常に優れた遺例として、昭和6年国宝に指定されている(現在は重要文化財)。中央は中心の柱から屋根が少しずつれる薬医門の型式で、切妻造、本瓦葺となっている。その左右に唐破風造本瓦葺の番所を置いている。このような例はあまり多くない。

さらに海鼠塀本瓦葺の繫塀が、左右に配されて、加賀百万石にいかにもふさわしい豪華な構造と構成を誇っている。しかも、赤門の名が象徴するように、鮮麗な朱漆が若く華やかな溶姫のイメージを見るものに呼び起こすのである。”

※国の重要文化財 指定(東京大学総合研究資料館 東京大学本郷キャンパスの百年)より引用しました。

【学校の勉強ができていれば？】

東京大学の本郷キャンパスには、「学生運動の安田講堂」や「三四郎池」等、観光スポットがあります。私は67歳にして、もっと学校の勉強ができていればこんな素晴らしい学舎で学ぶことが出来たのかな？なんて思いました。

しかし、そうすると現在の「明和町長 富塚もとすけ」はおそらく存在しません。今回、このような場所で貴重な経験をさせていただいて、明和町を変える壮大な夢を追う今の自分も楽しい人生を送っているなど感じました。

これからも、東大生の皆様には明和町の前途に沢山のアイデアを降り注いでほしいと思っております。誠にありがとうございました。

令和7年1月29日

明和町長 富塚もとすけ